

ひと

今回は思い出に残るお同行さんたちを悦美・前坊守に紹介してもらいます。

思い出の方々



緒方綾子さん（犀川本庄）

ナンマンダブ ナンマンダブ
ナンマンダブ ナンマンダブ

玄関の遙か遠くより綾子同行の大きな声が聞こえてくる。

お聴聞の常席は御講師の真前でした。口癖は「同座五百年と言いますね。こうして一緒に座らせて貰えるのは、余程の因縁なのですわー」。また「この私の口からお念仏が出てくださる。あーあ、幸せ者でございます」と、またお聞かせ下さった自身のお歌、色々ありました。

【草如来】

よい雨が降った お陰で草が生えた
草さま草さま草如来さま
あなたのお陰で仕事ができる
草さま草さま草如来さま
あなたのお陰で日がたてる

【法の身は】

生きてよし 死してまたよし
法の身は 今日一日を生かされてゆく

その他沢山の自作のお歌や尊いお言葉をいただいています。

雨の日は仏書に親しまれ、また法語のテープを御念仏とともに飽くことなく聞いておられたそうです。平成十六年六月十九日 お浄土へ

廣大院釋尼妙勝 俗名 緒方綾子

寿算九十九歳

一粒の種にあるエネルギーが土や水や光に会い、芽を出し枝を伸ばし実を成らせ、他の諸々のいのちの助けとなる。人の称える一声がいのちの糧となりどこまでも拡がり、人々の生き様となつてゆく。如より如へ。



平成二十六年六月 綾子同行と姉春枝 磯の折

綾子同行は仏法相続を切に願っておられた。あの大きい称名念仏のお声を本堂で耳にされた方も多いと思う。やるせない思いで私の側におつて下さったと思う。

そしてお身内の方々にも法義相続がなされている。願いは温情となり包んでいて下さる。

南無阿弥陀仏
南無阿弥陀仏



（なお綾子同行の冊子ご希望の方はお寺にお申し込みください。）

前々坊守春枝のご法事

本年は祖母春枝の三十三回忌に当たり、また叔母博子は今年二月が七回忌に当たりました。前任職耕二の七回忌は平成二十九年でしたが内輪で勤めましたので、今回ご親戚の皆様にもあらためてお参りいただきました。

6月9日午後3時より念信寺本堂で
ご法事を勤めましたので、ご披露させていただきます。

法要

- 瑞泉院釋尼深妙 村上春枝
平成元年6月1日 行年95歳33回忌
- 滋慶院釋尼妙博 村上博子
平成27年2月26日 行年83歳7回忌
- 威徳院 釋乘恵 村上耕二
平成23年11月14日 行年84歳7回忌



祖母・春枝は明治28年に小波瀬村与原、明増寺に六女として生まれ、24歳で15代念信寺住職・祖父恵美と結婚。

2男2女に恵まれました。昭和23年、52歳で恵美は還浄。

もともと家庭的な人ではなかったけれど、持ち前の気の強さと負けん気でお寺を護ってくれました。今から考えると、祖母なりに祖母らしく一所懸命に生きてくれたんだなあと思います。

叔母・博子は昭和8年に次女として生ま



れ、祖母のもと、ほとんどを念信寺で過ごさせてもらいました。晩年は施設のお世話になりましたが、母悦美は最後まで叔母の面倒を看ました。与えられた運命に従順な一生だったと思います。

父・耕二は戦後の混乱期や高度経済成長の時代のお寺を担って、たくましく生き切った人生でした。



三者三様、与えられた境遇の違いはありますが、そのまま念信寺の歴史でした。

今は、『大無量寿経』に「過去の諸仏は皆過ぎたまいにき」とあるように、皆過ぎ去ってしまったなあという実感です。

親鸞聖人は、父母の追善供養のために念仏を申したことは一度もないとおっしゃいます。一切の生きとし生けるものは、生まれ変わりに死に変わりしているうちの父母兄弟なのだから、その深く広いのちに目覚めて、与えられた限りある自分のいのちを生きなさい。念仏とは一如真実の世界からの呼びかけですよと教えられました。



コロナ以降ご法事も面倒だという風潮がありますが、今回のご法事を終えて亡き人を想い、内側に感じる時間の幅が広がりをもち、自分のいのちの物語を受けとることができるようになりました。今もその感覚が続いています。よいご縁をいただいたと思います。

